

平成23年度 第3回 太平洋いわし類・さば類長期漁海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
中央水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し（平成24年4月～7月）のポイント

海況

潮岬以東の黒潮は、4月中旬にC型からN型となり、5月後半以降はB・C型となる。

沿岸水温は、潮岬以西が「平年並」～「高め」、熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域が「平年並」～「やや低め」で暖水波及時に「高め」、鹿島灘～常磐南部海域が「平年並」～「低め」で推移する。

- ※1 N型：非大蛇行接岸流路（流路の南端が北緯33度以北）
- B型：非大蛇行接岸流路（流路の南端が北緯32度以北かつ33度以南）
- C型：非大蛇行離岸流路
- ※2 平年並＝平年値±0.5℃程度、高め＝平年値+1.5℃程度
やや低め＝平年値-1.0℃程度、低め＝平年値-1.5℃程度

漁況（来遊量予測）

マサバ・ゴマサバ

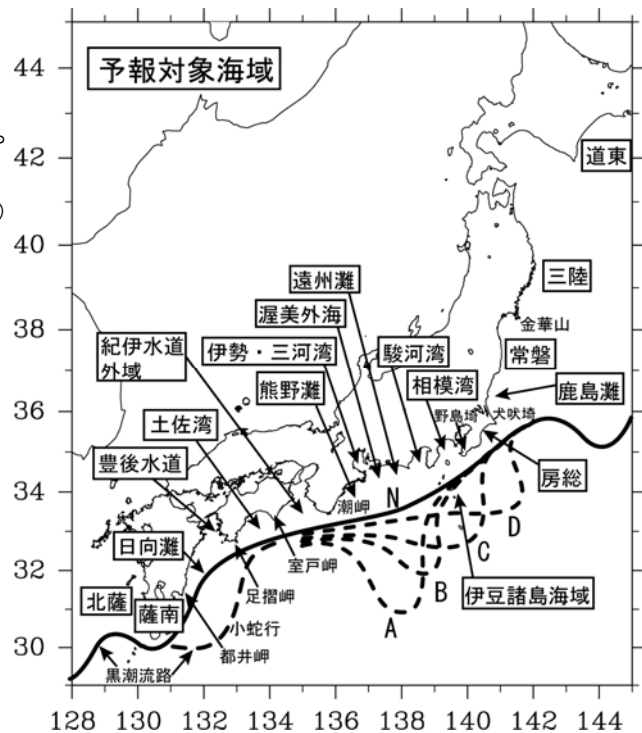
3歳魚主体に前年並か上回る海域が多い。

マイワシ

西日本では前年を上回る。東日本では前年並。

カタクチワシ

総じて前年を上回る。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、内海

電話：03-3502-8111（内線6800）、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

（予報の詳細についてのお問い合わせ先）

独立行政法人水産総合研究センター 中央水産研究所 業務推進部

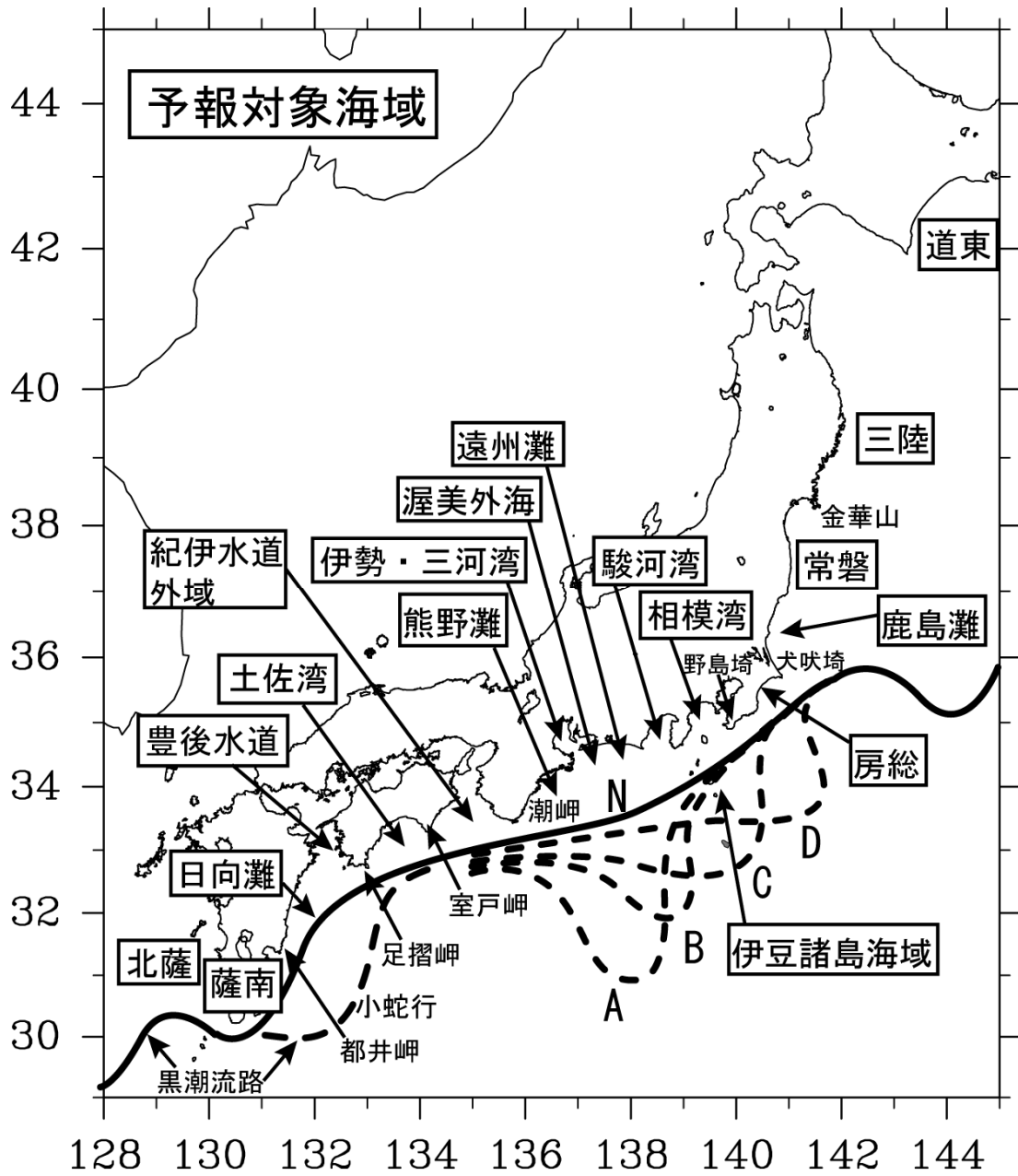
担当：市橋、生田

電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://nrifs.fra.affrc.go.jp/>



中央ブロック海況予報

今後の見通し（2012（平成24）年4月～7月）

(1) 黒潮（注：黒潮流型は図1を参照のこと。）

◎潮岬以西

- ・都井岬沖では、3月は離岸傾向であるが、3月後半に小蛇行が東進を開始し、4月後半以降は接岸傾向となる。
- ・足摺岬沖～潮岬沖では、概ね接岸傾向であるが、都井岬沖からの小蛇行の東進に伴い、3月後半～5月前半は離岸傾向になる。

◎潮岬以東

- ・4月中旬にC型からN型となり、5月後半以降はB・C型となる。
- ・房総沖では、離接岸変動が大きい。

(2) 薩南～房総沿岸域

- ・潮岬以西では、黒潮の離接岸に伴って沿岸域へ一時的に暖水が波及することがある。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、5月前半まで概ね冷水域に入るが、黒潮流路の変動に伴い、内側域への一時的な暖水波及がある。5月後半以降に黒潮がB型となった時は、暖水が広く波及する。
- ・伊豆諸島南部海域は、4月上旬までは黒潮より北側の冷水域に入る。4月中旬に黒潮がN型となった以降は、概ね黒潮より南の暖水域に入るが、黒潮流路の変動に伴い冷水域に入ることがある。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・沿岸域へ一時的に暖水や冷水が波及することがある。

(4) 沿岸水温

- ・潮岬以西は「平年並」～「高め」で推移する。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、「平年並」～「やや低め」で推移する。暖水波及時には「高め」となる。
- ・伊豆諸島南部海域は、4月前半まで「低め」で、4月後半以降は「平年並」～「高め」で推移する。黒潮流路の変動に伴い、「低め」となることがある。
- ・鹿島灘～常磐南部海域は、「平年並」～「低め」で推移する。ただし、暖水波及時には一時的に「高め」となる。

※ 平年並み＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、

（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上

経過 (2012年1月～3月) (注：経過は図2を参照のこと。)

(1) 黒潮

- ・ 2月上旬、N型流路からB型流路となった。
- ・ 3月上旬、C型流路となった。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎薩南海域

- ・ 12月、黒潮北縁は屋久島南付近の平均的な位置で推移した。
- ・ 1月～2月、黒潮北縁は接岸傾向で推移した。
- ・ 3月、黒潮北縁は接岸傾向の後、屋久島南付近の平均的な位置で推移した。

◎潮岬以西

- ・ 11月中旬以降、都井岬沖には小蛇行が存在し、離岸傾向で推移した。
- ・ 12月上旬～2月上旬、都井岬沖の小蛇行の一部が東進し、足摺岬～潮岬沖でそれに伴い離岸した。
- ・ 12月以降、足摺岬～潮岬では、小蛇行の東進時以外は接岸傾向で推移した。

◎潮岬以東

- ・ 1月上中旬、熊野灘から渥美外海へ暖水波及がみられた。
- ・ 1月下旬～2月中旬、伊豆諸島北部から渥美外海～相模湾へ暖水波及がみられた。
- ・ 1月～2月、伊豆諸島南部海域は概ね黒潮より南の暖水域に位置していた。
- ・ 3月上旬、伊豆諸島南部海域は黒潮がC型流路になったのに伴い、黒潮より北の冷水域に入った。
- ・ 野島崎沖の黒潮は、1月は平均的な位置、2月は離岸傾向で推移した。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 1月上旬、常磐南部海域には冷水が波及し、鹿島灘沿岸域には弱い暖水の張り出しがみられた。
- ・ 1月下旬、暖水が常磐南部海域まで達した。
- ・ 2月中旬、黒潮の流路変動に伴い、沿岸域に暖水が強く波及した。

現況 (2012年03月14日現在)

(1) 黒潮

- ・C型流路で推移している。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎薩南海域

- ・黒潮北縁は屋久島南付近の平均的な位置で推移している。

◎潮岬以西

- ・黒潮は、都井岬で「著しく離岸」、足摺岬で「やや離岸」している。
- ・黒潮は、室戸岬～潮岬で「接岸」している。

◎潮岬以東

- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域および伊豆諸島南部海域は概ね冷水域に入っている。
- ・房総沖で黒潮は、接岸している。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・鹿島灘沿岸域は黒潮系暖水の影響が残るが、常磐南部海域には親潮系冷水が波及し、強い潮目が形成されている。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に準じた。

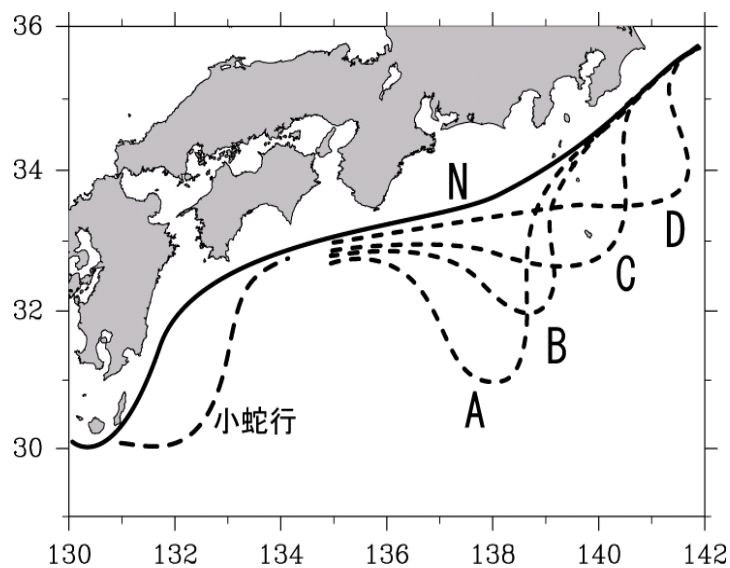


図1 黒潮流型の分類

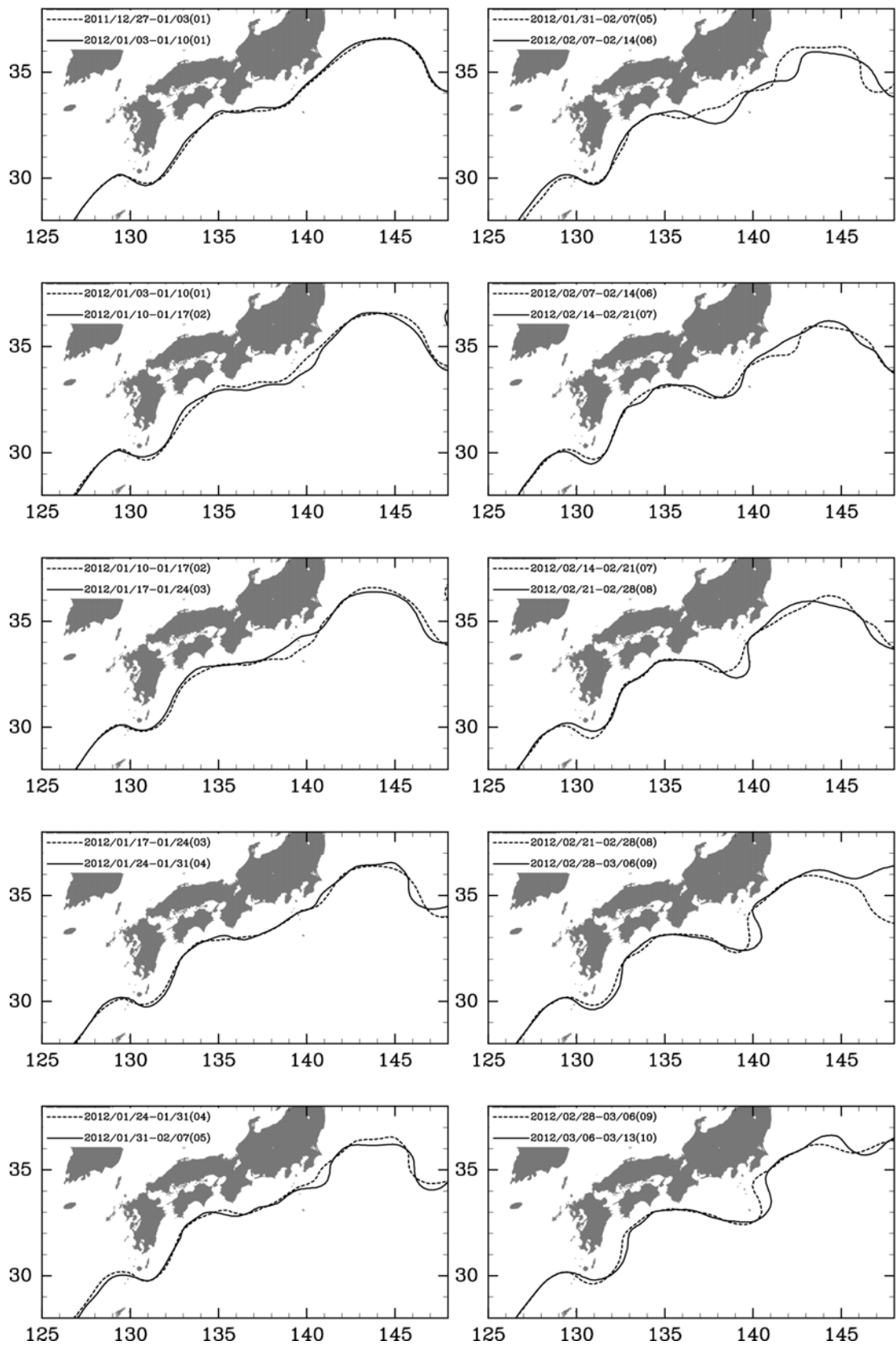


図2 黒潮流軸のパターン

(2011年12月~2012年3月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

マサバおよびゴマサバ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2012（平成24）年4月～7月）

対象海域：薩南～豊後水道南部、紀伊水道外域、熊野灘、伊豆諸島周辺海域、犬吠～三陸海域

対象漁業：まき網、定置網、棒受網、たもすくい

対象魚群：1歳魚（2011（平成23）年級群）、2歳魚（2010（平成22）年級群）、3歳魚（2009（平成21）年級群）、4歳（2008（平成20）年級群）以上。魚体の大きさは尾叉長で表示。年初に加齢。

1. 薩南～豊後水道南部（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ1歳魚は前年を下回る。2歳魚は多かった前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。4歳以上は少ない。サバ類全体としては前年並～下回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となる。薩南～日向灘では31～36cm（3歳魚）主体。豊後水道南部では23～32cm前後（1～3歳魚）主体。

2. 紀伊水道外域（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。4歳以上は少ない。サバ類全体としては前年並。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となり、25～40cm（1～3歳魚主体）。マサバは混獲程度。

3. 熊野灘（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：マサバは少ない。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。4歳以上は前年を上回る。サバ類全体としては前年を上回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となり、30～40cm（3歳以上）主体に25～29cm（1歳魚）も漁獲される。マサバは33～40cm（3歳以上）および23cm前後（1歳魚）。

4. 伊豆諸島周辺海域（棒受網、たもすくい）

- (1) 来遊量：マサバ1歳魚は前年を下回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を大きく上回る。4歳魚は前年並。マサバとしては前年を上回る。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。4歳以上は少ない。ゴマサバとしては前年を下回る。サバ類全体としては前年並。
- (2) 漁期・漁場：マサバ主体の漁場は伊豆諸島北部海域を中心に形成される。ゴマサバは期を通じて三宅島周辺海域が主漁場となるが、マサバに混獲される場合は伊豆諸島北部海域でも漁場が形成される。
- (3) 魚体：マサバは31～37cm（3、2歳魚）主体に37cm以上（4歳以上）も漁獲される。ゴマサバは30～34cm（3歳魚）と27cm前後（1、2歳魚）が主体。

5. 犬吠～三陸海域（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：マサバ1歳魚は前年を下回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を上回る。4歳以上は少ない。マサバとしては前年を上回る。ゴマサバとしては前年を上回る。
- (2) 漁期・漁場：まき網では犬吠海域～鹿島灘で期を通じて漁獲される。三陸海域の定置網では6月以降漁獲される。
- (3) 魚体：マサバは28～36cm（3、2歳魚）と25cm前後（1歳魚）が漁獲される。ゴマサバは27～36cm（3、2歳魚）と25cm前後（1歳魚）が漁獲される。

漁況の経過（2011年12月～2012年3月）および見通し（2012年4月～7月）についての説明

1. 資源状態

(1) マサバ

資源量は1990年代以降低い水準にあるが、加入量水準の高い2004、2007および2009年級群の発生により増加してきている。

2007年級群（5歳魚）以上の残存資源量は少ない。

2008年級群（4歳魚）は、2011年9月時点の資源評価（コホート解析）による推定加入尾数が6億尾であり、加入量水準は低い。これまでの漁況経過からみても資源量は少ない。

2009年級群（3歳魚）は、推定加入尾数が21億尾であり、近年では2004年級群に次ぐ高い水準と推定され、これまでのたもすくいなど各地漁業の漁獲物の主体となっている。

2010年級群（2歳魚）は、推定加入尾数が16億尾と比較的高い水準であり、これまでのまき網など各地漁業で2009年級群とともに漁獲物の主体となっている。

2011年級群（1歳魚）は、2011年9月時点の資源評価では、5～7月までの調査船調査結果をもとに加入尾数が8億尾と近年の平均を下回る水準と推定された。その後の6～10月の三陸～道東流し網調査（釧路水試）や9～10月の北西太平洋中層トロール調査（中央水研）では、比較的低い水準のCPUEや出現率を示した。これまでのところまき網漁業でもまとまった漁獲はみられていない。以上の情報から、2011年級群の加入豊度は近年の平均を下回る水準と判断される。

(2) ゴマサバ

資源量は1990年代後半以降高い水準にある。0歳時に黒潮-親潮移行域を回遊して加入する群が資源の主な部分を占めるようになっている。

2008年級群（4歳魚）は、2011年9月時点の資源評価（コホート解析）による推定加入尾数が5億尾であり、加入量水準は低い。これまでの漁況経過からみても残存資源量は少ない。

2009年級群（3歳魚）は、推定加入尾数が18億尾であり、近年では2004年級群に次ぐ高い水準と推定され、これまでの各地漁業の漁獲物の主体となっている。

2010年級群（2歳魚）は、推定加入尾数が10億尾と比較的高い水準であり、これまでの各地漁業で2009年級群とともに漁獲対象となっている。

2011年級群（1歳魚）は、2011年9月時点の資源評価では、5～7月までの調査船調査結果をもとに加入尾数が近年の平均程度の8億尾と推定された。その後の6～10月の流し網調査（釧路水試）ではCPUEが1994年以降の同調査で低い水準であり、9～10月の中層トロール調査（中央水研）では出現率・CPUEが2001年以降の同調査で中位程度であった。これまでの各地漁業では、海域によっては漁獲がみられている。7～12月の静岡県棒受網CPUEに基づく資源密度指数（静岡水技研）は、2011年級群は2,893であり、2009年級群（16,782）、2010年級群（3,696）を下回ったが2008年級群（559）を上回った。また、本指数から回帰式によって推定される加入尾数は8.5億尾であった。以上の情報から、2011年級群の加入豊度は近年における中位程度と判断される。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

1) マサバ

(1) 来遊量

資源状態の項に前述した通り、これまで得られている情報から、1歳魚（2011年級群）は近年の平均を下回る水準と判断され、来遊量は前年を下回る。2歳魚（2010年級群）は近年において比較的高い加入量

水準であり、来遊量は、多かった前年2歳魚（2009年級群）を下回るが、主な漁獲対象となる。3歳魚（2009年級群）は近年では高い加入量水準であり、来遊量は前年を上回り、漁獲の主体となる。4歳（2008年級群）以上の来遊量は少ない。マサバ全体としては前年並かやや上回る。伊豆諸島より西の海域では、来遊量は少なく、サバ類に占めるマサバの割合は低い。

(2) 漁期・漁場、魚体

2011年12月～2012年2月の漁況は、犬吠以北海域のまき網は、2、3歳魚主体に鹿島灘～犬吠海域で漁場が形成され、操業回数の減少もあったために漁獲量は4.6万トンと前年同期（5.2万トン）を下回った。千葉県以北の定置網による漁獲量は0.9千トン（前年同期0.9千トン）であった。伊豆諸島周辺海域のたもすくいでは、1～2月にマサバ3、2歳魚主体に北部海域のヒョウタン瀬で漁場が形成され、漁獲量は1.1千トン（前年同期1.0千トン）であった。駿河湾以西の海域ではゴマサバに混獲され、漁獲量は4.0千トン（前年同期1.3千トン）であった。（漁獲量は各地主要港水揚げ資料および水揚げ物標本測定結果等からの推定値）

本予測期間における各地の漁期・漁場および魚体は、犬吠以北海域のまき網では1～3歳魚を対象に犬吠海域が主漁場となり、暖水舌が波及するときには鹿島灘にも漁場が形成されると考えられる。伊豆諸島周辺海域のたもすくいでは、黒潮流路は4月中旬にC型からN型となり、5月後半以降はB・C型となると予測されており、マサバ主体の漁場は主に大室出し～ヒョウタン瀬といった北部海域で形成されるが、三宅島周辺海域や銭洲海域でも形成される可能性がある。3、2歳魚主体に4歳以上混じりで漁獲され、漁期終盤には1歳魚もわずかに混獲される。伊豆諸島より西の海域ではマサバ主体の漁場形成はなく、ゴマサバに混獲される程度。

年齢別尾叉長は、これまでの体長組成の推移、年齢査定の結果から概ね次の通りである。

1歳魚（2011年級群）：30cm以下、2歳魚（2010年級群）：28～33cm、3歳魚（2009年級群）：31～37cm、4歳魚（2008年級群）：35～38cm、5歳（2007年級群）以上：39cm以上。

2) ゴマサバ

(1) 来遊量

資源状態の項に前述した通り、これまで得られている情報から、1歳魚（2011年級群）は近年における中位水準の加入量水準と判断されるが、来遊量は前年を上回る海域が多い。2歳魚（2010年級群）は近年において比較的高い加入量水準であり、来遊量は、多かった前年2歳魚（2009年級群）を下回るが、主な漁獲対象となる。3歳魚（2009年級群）は近年では高い加入量水準であり、来遊量は前年を上回り、漁獲の主体となる。4歳（2008年級群）以上は残存資源量が少なくなっており、来遊量は少ない。ゴマサバ全体としては前年並かやや上回る。

(2) 漁期・漁場、魚体

2011年12月～2012年2月の漁況は、紀伊水道外域以西の各海域では3～1歳魚（2009～2011年級群）を対象に大部分の海域で前年を上回った。薩南～紀伊水道外域の漁獲量は1.4万トン（前年同期1.2万トン）であった。熊野灘では3～1歳魚主体に0歳魚や4歳以上混じりで漁獲量は1.8万トンと前年同期（0.4万トン）を大きく上回った。駿河湾周辺のまき網では3、2歳魚主体に漁獲量は8.7千トンで前年同期（6.1千トン）を上回った。伊豆諸島周辺海域の棒受網、たもすくいでは、3、2歳魚主体に漁獲量は2.6千トン（前年同期2.7千トン）であった。犬吠以北海域のまき網では、主に2、3歳魚がマサバに混獲され、漁獲量は6.9千トン（前年同期2.5千トン）であった。（漁獲量は各地主要港水揚げ資料および水揚げ物標本測定結果等からの推定値）

本予測期間における各地の漁期・漁場および魚体は、薩南～日向灘では3歳魚（2009年級群）主体に、豊後水道南部、紀伊水道外域では1～3歳魚（2009～2011年級群）を対象に、熊野灘では3歳魚主体に1歳

魚も対象に、期を通じて漁場が形成される。伊豆諸島周辺海域では、3～1 歳魚主体に、期を通じて近年の主漁場である三宅島周辺海域を中心に漁場が形成される。4 歳以上も混じる可能性がある。犬吠以北海域では、1～3 歳魚が鹿島灘～犬吠海域で漁獲される。

年齢別尾叉長は、これまでの体長組成の推移、年齢査定の結果から概ね次の通りである。

1 歳魚（2011 年級群）：27cm 以下、2 歳魚（2010 年級群）：27～33cm、3 歳魚（2009 年級群）：31～36cm、4 歳（2008 年級群）以上：35cm 以上。

マイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2012（平成24）年4月～7月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2012（平成24）年級群）、1歳魚（2011（平成23）年級群）、2歳魚（2010（平成22）年級群）、3歳魚（2009（平成21）年級群）、4歳魚（2008（平成20）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 渥美外海～駿河湾のマシラス（船曳網）

(1) 来遊量：前年を下回る。

(2) 漁期：渥美外海では4月～6月。遠州灘～駿河湾では3月下旬～5月。

2. 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：紀伊水道外域東部では前年を下回る。それ以外の海域では上回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：漁期前半は13cm～20cmの1歳魚を主体に20cm前後の2歳魚が混じる。期の後半には6cm～14cmの0歳魚が主体となる。

3. 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：伊勢・三河湾、渥美外海、駿河湾および相模湾南部では前年並。相模湾北部では前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：伊勢・三河湾、渥美外海では4月以降に漁獲される。駿河湾、相模湾では概ね期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：伊勢・三河湾では0歳魚と1歳魚が対象となる。駿河湾、相模湾では14cm～18cmの1歳魚を主体に18cm～20cmの2歳魚が混じる。相模湾北部では6月以降9～12cmの0歳魚も漁獲される。

4. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：期を通じて鹿島灘～房総海域にまき網漁場が形成される。常磐以北ならびに道東海域ではまき網漁場は形成されない。仙台湾～三陸南部の定置網については5月以降漁獲がある。

(3) 魚体：1、2歳魚を主体に3歳以上がわずかに混じる。1歳魚は13cm～18cm、2歳魚は17cm～21cm、3歳以上は21cm～23cm。

漁況の経過（2011年12月～2012年2月）および見通し（2012年4月～7月）についての説明

1. 資源状態

マイワシ太平洋系群の資源量は1994年に100万トンを下回り、1999年までは70万～90万トン台で推移した後、再び減少傾向となった。2002年以降は20万トン未満で推移していたが、近年は増加傾向がみられる。

2008年級群は、0歳魚時点での諸調査船調査結果ならびに低調な漁況経過から当初は低い豊度に留まるものと考えられていた。しかし、翌2009年漁期になると1歳魚として熊野灘以東の各海域において漁獲されるようになり、同年のマイワシ漁獲量を引き上げ、さらに2010年漁期には2009年級群とともに房総～常磐海域におけるまき網の好漁を支えた。この1、2歳魚時点での好漁に基づき、2008年級群は2000年級群に迫る高い豊度であったと推定された。2011年漁期においても被鱗体長21cm～22cmの3歳魚として房総周辺のまき網漁獲物に出現したが、漁獲全体に占める割合はわずかで、残存資源量は少ないと思われる。

2009年級群は、0歳魚時点での諸調査船調査結果の多くにおいて高豊度である可能性が示唆された。漁業においても、同年級群が0歳魚であった2009年漁期中は低調に推移したものの、1歳魚となった2010年漁期には2008年級群と共に房総～常磐海域におけるまき網で漁獲され、2年連続の好漁を支えた。2011年漁期においても、被鱗体長19cm～22cmの2歳魚として房総周辺のまき網漁獲物に出現したものの、漁獲全体に占める割合は2割以下で、残存資源量は少ないと思われる。

2010年級群は、0歳魚の時点で実施された調査船調査の多くの結果において近年では極めて高い

豊度である可能性が示唆された。漁業では、2010年秋以降の三陸・道東海域における漁獲物中に出現し始め、2010年11月下旬には八戸2そうまき網において0歳魚を主体とする漁場が形成された。さらに2011年2月より現在に至るまで房総海域におけるまき網で多獲され、その資源量指標値である未成魚越冬群指数（千葉水総研）は5.36と、ここ10年間で最大の値に達するなど、近年では非常に豊度の高い年級である。

2011年級群は、産卵量（前年10月～6月）は119兆粒で、前年同期の75兆粒を上回った。一方、2011年6月の移行域幼稚魚調査（中央水研）に基づく加入量指数は61.6で、2010年の1213.1を大きく下回ったものの、2009年（38.2）を上回った。また6月～7月の北西太平洋サンマ漁期前調査（東北水研）他によるマイワシ0歳魚の現存量推定値（19億尾）も、2010年（78.7億尾）を下回ったものの、2009年以前の値よりも一桁高い値を示した。さらに2011年9月～10月にかけて千島列島東方沖合にて実施した秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）におけるマイワシ0歳魚出現状況からは、2011年級群の加入豊度は2010年を下回るが、近年では比較的高い程度と判断された。これら調査船調査の結果は、0歳魚（2011年級群）の加入量水準は、極めて高水準であった2010年級群を下回るものの、近年10年間の中では高い水準にあることを示唆している。また2011年漁期の春～秋にかけて、東京湾より西の海域において0歳魚が前年を大きく上回るペースで漁獲され、各県の漁獲量を大きく引き上げ、10月以降の八戸2そうまき網で0歳魚がまとまって漁獲されるなど、広い範囲で2011年級群の加入・漁獲情報が得られている。正確な年級豊度の評価は今後の未成魚越冬群指数（千葉水総研）等の情報から判断することになるが、近年では比較的高い豊度にあると考えられる。

2012年級群の、太平洋沿岸におけるマシラスとしての出現状況は東西で大きく異なった。渥美外海～日向灘にかけての西側海域では、前期のマシラス漁獲量は前年を上回り、西日本沿岸における2012年級群の分布量は前年を上回ると予想される。一方、遠州灘～相模湾にかけての東側海域では、2011年12月の漁獲ならびにその後の禁漁期間中に実施された試験操業結果の多くで前年を下回ったものの、分布量の多寡の判断については3月中旬のシラス漁解禁以降の本格操業を待つ必要がある。沖合における分布については、今後の調査船調査の結果を待って判断することとなる。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

1) マシラス

2011年12月から2012年2月にかけて、相模湾以西の太平洋沿岸各海域においてシラス漁あるいは試験操業がおこなわれた。日向灘および土佐湾で行われたシラス漁では、マシラスの漁獲あるいは混獲状況は好調であった。2011年12月に紀伊水道で行われた標本船調査では、マシラスが全体に占める割合が27%と、例年の数%～10数%に比べ高い値を示した。2011年12月に渥美外海でカタクチシラスに混獲されたマシラスは10.8トンで、皆無であった前年同期を大きく上回り、近年に無い高い来遊量であった。一方、遠州灘～相模湾では、2011年12月のマシラス混獲量は前年を下回り、また1月以降に実施されている試験操業においてもマシラスの漁獲量は前年を下回っている。このように、前漁期におけるマシラス漁獲量は、渥美外海より西側の海域においては前年を上回る好調、一方遠州灘から相模湾に至る東側海域においては前年を下回る低調な来遊で推移した。今漁期については、前期好調であった渥美外海においても、予想される黒潮の流路がマシラスの沿岸への来遊に不適なものとして予想されることから、前年同期を上回る来遊はないと予測される。また遠州灘～駿河湾においても、これまでの調査船調査の結果からマシラスの分布量は少ないと予測される。

2) 未成魚・成魚

(1) 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

来遊量：紀伊水道外域以西における今期前半の主たる漁獲対象は1歳魚であり、これに2歳魚が加わる。紀伊水道外域西部以西の多くの海域において、2011年漁期における0歳魚の漁獲は前年を上回り好調に推移した。これらの海域においては今期年明け1歳魚としての来遊水準も高く、前年を上回ると予測される。紀伊水道外域東部では、前期の0歳魚の漁獲が前年を下回り、また2012年1月から現在まで漁獲が途絶えており、今期の年明け1歳魚の来遊量は前年を下回ると予測される。土佐湾以西では、期の後半になるにつれて0歳魚の加入が見られ、やがて漁獲の主体を占めるようになる。0歳魚の豊度についてはまだ情報が少なく予測が困難であるが、その産卵親

魚の漁況などから前年並の来遊が予測される。熊野灘における漁獲対象は1歳魚と2歳魚であるが、それぞれ前漁期0歳魚として特異的に多獲された2011年級群と、卓越年級群である2010年級にあたること、また2011年12月から現在に至るまで連続して2011年級群が漁獲され続けていることから、不漁であった前年を上回る来遊が予測される。期後半には0歳魚も漁獲される。

漁期：期を通じて漁獲される。

魚体：体長13cm～20cmの1歳魚が漁期前半における漁獲の主体となり、体長20cm前後の2歳魚が混じる。期の後半に漁獲される0歳魚は体長6cm～14cm。

(2)伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

来遊量：今期の伊勢・三河湾、渥美外海で漁獲の主体となるのは0歳魚および1歳魚である。今期は2010、2011両年級群による親魚量の増加が期待され、また2011年11月～12月に近年にない規模でマシラスの来遊が確認される等好適な情報がある。一方、春季の黒潮流路がマシラスや小型未成魚の沿岸への来遊に適さない型で推移するという予測もあり、来遊量は前年並と予測される。駿河湾、相模湾での今期の漁獲主体は1歳魚で、2歳魚がこれに混じる。また伊豆諸島周辺では2歳以上の個体が漁獲される。1歳魚は2011年漁期に0歳魚として駿河湾、相模湾両海域で多獲されており、今期も高豊度の来遊が期待される。2歳魚は卓越年級群である2010年級であることから、海況次第では多く来遊し1歳魚とともに漁獲されることも考えられる。なお、前年同期における相模湾北部の好漁は、1歳魚が例年よりも早く、かつ大量に来遊したことによるが、今期は同海域の1～3月のマシラス分布量が前年を大きく下回ったことから、ヒラゴサイズとしての来遊量も前年を下回ると推測される。以上を総合すると、駿河湾および相模湾南部における来遊量は好漁であった前年同期並、相模湾北部における来遊量は前年を下回る。

漁期・漁場：伊勢・三河湾、渥美外海では4月以降に漁獲される。駿河湾、相模湾南部（静岡県域）のまき網では期を通じて散発的に漁獲される。相模湾北部（神奈川県域）では期を通じて漁獲される。伊豆諸島では4月に棒受網、たもすくいに混獲される。

魚体：伊勢・三河湾、渥美外海では0歳魚および1歳魚。駿河湾、相模湾では14cm～18cmの1歳魚を主体に18cm～20cmの2歳魚が加わる。相模湾北部では6月以降9～12cmの0歳魚も漁獲される。伊豆諸島周辺で漁獲されるのは19cm以上の2歳以上の個体。

(3)房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

来遊量：今期漁獲物の主体となるのは1歳魚と2歳魚である。1歳魚の豊度については、現在大中型1そうまき網の漁場形成が少なく予測が難しい。しかし、2011年漁期の東京湾以西海域において0歳魚としてまとまった加入がみられたこと、また2011年9月～10月に実施された秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）においても、2010年級には至らないものの、近年では比較的高い豊度と判断されたこと、11月以降の八戸2そうまき網でも小羽対象の漁場形成が観られたこと、さらに東北～常磐沿岸各地においても比較的にまとまった漁獲があったことなどから、前年を下回るものの高い水準での来遊があると予測される。正確な判断は4月以降に算出される未成魚越冬群資源量指数を待つこととなる。2歳魚は、本海域における2011年漁期の漁獲の主体として、2000年以降で最も多い漁獲量をもたらした高豊度の年級である。また本年1月～2月には宮城県の定置網で17cm～18cmモードの魚群を主体に1千5百トンを超える漁獲があり、また2月の銚子港におけるまき網漁獲量が2歳魚を主体に3千トン弱に達するなど、今漁期においてもまだ豊富な残存資源量を維持しており、前年同期の2歳魚を上回る来遊が予測される。以上を総合すると、好漁であった前年並の来遊量と予測される。

漁期・漁場：まき網漁場は断続的に鹿島灘～房総海域に形成される。6月には再びまとまった漁場が形成される。常磐南部～仙台湾にかけての海域は、現在まき網の操業自粛措置がとられている。三陸海域ならびに道東海域では、まき網漁場は形成されない。仙台湾～三陸南部の定置網においては、5月以降漁獲がある。

魚体：1歳魚と2歳魚が漁獲の主体となり、3歳以上がわずかに加わる。魚体は、1歳魚については4月～5月は13cm～16cm、6月～7月には15cm～18cm。2歳魚は17cm～21cm、3歳以上は21cm～23cmとなる。

カタクチイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2012（平成24）年4月～7月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2012（平成24）年級群）、1歳魚（2011（平成23）年級群）、および2歳魚（2010（平成22）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 西薩～常磐南部のシラス（船曳網）

(1) 来遊量：西薩～土佐湾では前年並か下回る。渥美外海では前年を下回る。遠州灘～駿河湾では前年並。相模湾では前年並か下回る。鹿島灘～常磐南部では前年を上回るが不漁水準。

(2) 漁期：全期間。

2. 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩～薩南および豊後水道南部西側では前年並。日向灘および豊後水道南部東側では前年を上回る。土佐湾では前年並か上回る。紀伊水道外域ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期：全期間。

(3) 魚体：10～14cm（1歳魚・2歳魚）主体。期後半に8cm以下（0歳魚）も漁獲される。

3. 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：熊野灘では前年を上回る。伊勢・三河湾～渥美外海では前年を下回る。駿河湾～相模湾では前年並か上回る。

(2) 漁期・漁場：全期間。

(3) 魚体：10～14cm（1歳魚・2歳魚）主体。期後半に8cm以下（0歳魚）も漁獲される。

4. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：常磐・房総のまき網では前年を上回る。三陸の定置網では前年並か上回る。道東の定置網ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期・漁場：常磐・房総海域は6月まで。三陸の定置網は5月以降。

(3) 魚体：10～12cm台の1歳魚主体で12～14cmの2歳魚が混じる。

漁況の経過（2011年12月～2012年2月）および見通し（2012年4月～7月）についての説明

1. 資源状態

カタクチイワシ太平洋系群の資源量推定値は1998（平成10）年から2010（平成22）年まで70万トン～150万トンで推移している。2010（平成22）年の資源水準は過去30年で中位、動向は5年間で横ばい傾向である。本系群は漁場が形成される沿岸域だけでなく黒潮親潮移行域まで広く分布している。

2010年級群（2歳魚）は、2010年11月～2011年6月の漁期における常磐・房総海域の1歳魚の漁獲量としては低水準で前年の1歳魚（2009年級群）を下回ったが、操業日数を制限したことによる漁獲減の影響もあったと考えられる。2011年の北西太平洋サンマ資源調査（東北水研、6月～7月）および同年秋季のマサバ等浮魚資源調査（中央水研、9月～10月）においては、10cm以上のカタクチイワシの推定分布量は低水準であった。9月～10月の道東海域での漁獲（1歳魚主体）は2011年で3千トン台であり、2009年・

2010年の1万トン～2万トンを下回り不漁であったが、漁場は3ヶ年ともごく沿岸域に限られた。2011年12月～2012年2月までの常磐房総海域での12cm以上の魚体（2歳魚主体）の漁獲量は17千トンで、前年同期（22千トン）、前々年同期（38千トン）を下回った。以上の情報から、2010年級群は、最近10年の中で見れば低水準であると考えられる。

2011年級群（1歳魚）は、春季のシラス漁況が概ね不漁で一部の海域で中漁程度であった。2011年の北西太平洋サンマ資源調査（東北水研、6月～7月）においては10cm未満の未成魚として広く出現しており、推定分布量は2001年以降で上から4番目、同年秋季のマサバ等浮魚資源調査（中央水研、9月～10月）では、漁獲尾数が2001年以降で最高であった。一方、秋季の道東海域の流し網調査（釧路水試）や道東まき網の漁獲物では0歳魚は見られず、房総海域の秋季の2そうまきは前年を上回ったが高水準ではなかった。鹿島灘・常磐海域の夏秋季のシラスは、漁獲量は低水準であったが、一部地区での操業自粛と9月の台風の影響もあったと考えられる。前年12月～本年2月までの常磐房総海域での12cm未満の魚体（1歳魚主体）の漁獲量は17千トンで、前年（8千トン）を上回り、前々年（18千トン）並であった。以上の状況から、2011年級群は高～中水準で、これまでの分布の中心は漁場外の沖合にあったと考えられる。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 西薩～常磐南部のシラス（船曳網）

西薩～土佐湾では、2月までの成魚の来遊が一部の海域で前年を上回るものの水準は低く、今後産卵親魚が来遊してもシラスの漁場形成はそれよりも遅くなることから、今期は総じて前年並か下回ると考えられる。渥美外海では、黒潮流路が春季前半における当該海域へのシラス来遊に適さないC型からN型で推移すると予測されることから、来遊水準は高くなく、前年を下回ると考えられる。遠州灘～駿河湾では太平洋系群の親魚資源量とシラス漁獲量の関係から、前年並と考えられる。相模湾では冬季の親魚の来遊水準が前年並であったが、禁漁期調査でシラス群が少なく、海況予測から漁場形成が前年より遅れると考えられるため、来遊水準は前年並か下回ると考えられる。鹿島灘～常磐南部では、親潮系冷水の南下傾向が強く当該海域で冷水傾向が持続すると予測されるため、漁場形成が遅れ不漁水準と考えられるが、漁獲量としては震災の影響による休漁で極めて不漁となった前年を上回る。

(2) 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

北薩～薩南海域では、2月までの漁獲量が前年より多いものの低調であるため、前年並と予測される。日向灘～土佐湾の大型成魚については、太平洋全体での2歳魚（2010年級群）の資源量が低水準であるものの、1月～2月に熊野灘に12cm～14cmの2歳魚主体の群が来遊し、熊野灘での前年12月～当年2月の漁獲量が5.6千トンと中漁程度で、不漁であった前年同期の0.8千トンを上回ったことから、前年を上回る来遊が期待される。日向灘ではシラスおよび小型まき網の漁況から予測期間後半に出現する地先由来の小型群（10cm～11cm主体）は低調と考えられるが、大型成魚の来遊が期待されることから、低調であった前年を上回ると予測される。豊後水道南部東側でも大型成魚の来遊がある程度期待され、不漁の前年を上回ると予測される。豊後水道南部西側では、予測期間における漁獲量に対する大型成魚の来遊の多寡の影響が近隣海域ほど顕著でないため、前年並と予測される。宿毛湾～土佐湾では2月までの漁獲がほとんど無く、

大型成魚が漁獲に結びつくかの判断も難しく、不漁の前年並か上回る水準と考えられる。紀伊水道外域では未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではないため、まとまった漁獲は無い。

(3) 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

熊野灘では、冬春季の漁獲対象は道東や常磐・房総海域から南下回遊する群が主体となっている。今期は1月から12cm～14cmの2歳魚（2010年級群）主体の大型群が漁獲されており、今後はより資源量が多い1歳魚（2011年級群）が常磐房総海域以西にも来遊すると考えられるため、今期の来遊水準は前年を上回ると考えられる。伊勢・三河湾～渥美外海では、4月以降に1歳魚（2011年級群）が漁獲対象となるが、同海域における前年秋季のシラス漁況が中漁程度で前年を下回り、0歳魚（2012年級群）についても同海域の今期のシラスが前年を下回ると予測されるため、総じて前年を下回ると予測される。駿河湾～相模湾では、2010年級群（2歳魚）に加えて2月までに2011年級群（1歳魚）も漁場に参加しており、常磐房総海域の予測も考慮すれば前年並か上回ると考えられる。

(4) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

常磐・房総海域における前年12月～2月の漁獲量は34千トンで、前年同期の30千トンを上回った。この期間、例年であれば1そうまきの水揚げが主体となるが、本年は1そうまきがサバ漁を継続しているため全て2そうまきによる漁獲であり、2そうまきとしては前年を上回った。漁獲物のうち、12cm未満

（2011年級群主体）の割合は、漁獲重量換算で前年12月で40%、1月で45%、2月で95%であった。2010年級群（2歳魚）は低水準であるものの、2011年級群（1歳魚）は前年秋季のマサバ等浮魚資源調査で高い水準であり、例年では3月以降2歳魚の割合が減少し1歳魚が漁獲の主体となるため、今期の来遊水準は前年を上回ると考えられる。漁場および体長については近年の傾向および最近の漁獲物の体長から判断した。

三陸の定置網では例年5月から水揚げがあるが、前年同期が震災の影響により漁獲が無かったため、前年と比較しての来遊水準の予測は困難であるものの、常磐・房総海域の予測および各年級群の資源状態から、来遊水準は前年並か上回ると予測される。ただし、震災の影響により操業自粛や漁業設備の不足等の事態が継続しているため、三陸～鹿島灘における漁獲動向は魚群の来遊状況と一致しない可能性がある。

道東の定置網では、予測期間中の来遊は前年同様、ほとんど無いと考えられる。

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	愛媛県農林水産研究所 水産研究センター 栽培資源研究所
福島県水産試験場	大分県農林水産研究指導センター 水産研究部
茨城県水産試験場	宮崎県水産試験場
千葉県水産総合研究センター	鹿児島県水産技術開発センター
東京都島しょ農林水産総合センター	大阪府環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター
神奈川県水産技術センター	香川県水産試験場
静岡県水産技術研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
愛知県水産試験場 漁業生産研究所	(取りまとめ機関)
三重県水産研究所	独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所